

信頼、尊敬し合う関係を

AMDA 活動方針 菅波代表が説明



AMDAの活動方針について話す菅波代表

保健医療分野での国際協力などを研究する第27回日本国際保健医療学会学術大会が3日、岡山市北区津島中の岡山大津島キャンパスであった。菅波茂大会長が、代表を務める国際医療ボランティア・AMDAの活動方針について話した。

菅波代表は同学会員ら約400人を前に「世界平和パートナーシップ」と題して講演。

「救える命があればどこへでも」などをスローガンに、アジアを中心とした30カ国の支部と50協力団体と連携し、世界各地の被災地で医療支援などに取り組んでいると説明した。

「被災者や医療環境が整っていない国の人々など、支援を受ける側にはそれぞれの宗教や文化がある。その壁を取り除くには同じ民族、同じ宗教の人々の

助けがあればスムーズにいく」と主張。「支援を受ける側にはプライドがあり、一方的な資金援助のような形は長続きしない。互いに信頼、尊敬し合って共に進むパートナーになることが重要」とした。

(内田圭助)